

エコトーンに着目したヒトの景観選好に関する研究

田中 章 研究室

1761066 難波 大地

1. 背景と目的

画一的な開発により、景観は元来備えていた魅力や特質を失いつつあるが、2004年に「景観緑三法」が施行されるなど、居住環境の形成において景観の重要性が認識され始めている（大石ら、2007）。さらに、現在の景観計画はデザイナーや行政関係者の経験に委ねられたものが多く、これまで重ねられてきた景観に関する研究が生かされているとは言い難い（姫野ら、2003）。

また、水の存在が景観の評価を上昇させると結論付けたズーベの水理論（進士、2005）と景観を自身の生息地としての適否によって直感的に捉えているという生息地理論（アップルトン、1996）は、水がヒトを含む生物に必要不可欠であるという点で整合している（田中、2008）。そして、水のみを景観より、生物多様性が高く生産性も高い水域と陸域の境界である「水辺エコトーン」を含む景観をより好ましく感じると考えられる（田中、2008）。

本研究では、写真対を用いたアンケート調査を通じて生物多様性が高いとされる水辺エコトーンが存在がヒトの潜在的な景観選好性に与える影響を明らかにし、良好な景観の創造や保全、整備計画の促進を図ることを目的とする。

2. 研究方法

本研究では、写真対を用いたアンケート調査を行った。用いた写真対は、「水辺エコトーンが存在する、またはその面積がより大きい」写真、「水辺エコトーンが存在しない、またはその面積がより

小さい」写真の2枚である。これらを提示し、「自給自足の生活を行うとしたらどちらの写真の場所がより好ましいと感じるか」と質問する。質問に用いた文言は、ヒトが潜在的に持つ、その場所の良し悪しを生物としての生存必須条件の観点から視覚的に判断する感覚を用いた選択を促すためのものである。また、これらは共通の写真をGIMPを用いて加工し、比較対象となる「水辺エコトーンの有無」及び「水辺エコトーン的面積の多少」以外の相違点を排除した写真対である。これは、比較対象である水辺エコトーン以外の相違点に被験者が着目し、選好結果にバイアスがかかることを避けるためである。写真対1では、単調な水分条件に伴う単調な植生を有する水辺エコトーンが写された写真をA、多様な水分条件に伴う多様な植生を有する水辺エコトーンが写された写真をBとした。写真対2では、多様な水分条件に伴う多様な植生を有する水辺エコトーンが写された写真をA、単調な水分条件に伴う単調な植生を有する水辺エコトーンが写された写真をBとした。写真対3では、水辺エコトーンが存在しない写真をA、水辺エコトーンが存在する写真をBとした。写真対4では、多様な水分条件に伴う多様な植生を有する水辺エコトーンが写された写真をA、単調な水分条件に伴う単調な植生を有する水辺エコトーンが写された写真をBとした。

これらの写真対を計4対について、SNS(LINE、Twitter、Instagram)を用いて回答を求めた。

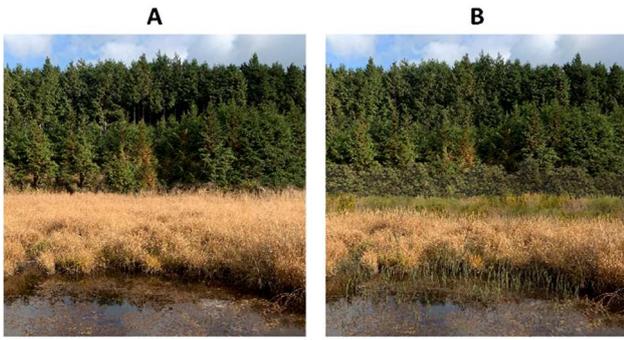


図1 写真対1



図2 写真対2



図3 写真対3



図4 写真対4

3. 研究結果

図5に示すグラフのように、写真対1においては写真Bが91.7%、写真対2においては写真Aが75%、写真対3においては写真Bが98.3%、写真対4においては写真Aが70%の割合で、より多様な水分条件に伴う、より多様な植生を有する水辺エコトーンが写された写真及び水辺エコトーンが存在する写真が全ての写真対において選好される

結果となった。

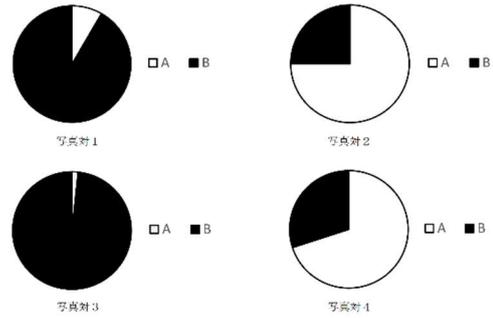


図5 各写真対の回答結果

4. 考察

いずれの写真対においても、より多様な水分条件に伴う、より多様な植生を有する水辺エコトーンが写された写真及び水辺エコトーンが存在する写真が全ての写真対において選好される結果となった。これらの回答から、ヒトはその場所の良し悪しを判断する際、生物としての生存必須条件の観点から視覚的に判断するという潜在的な感覚を用いている可能性が示唆された。そしてこの調査結果は田中(2008)の仮説を支持するものである。

5. 引用文献

- 大石洋之, 村川三郎, 西名大作. (2007). 選好景観に対する被験者の心理的評価に関する分析. 日本建築学会環境系論文集, 72(618), 101-108.
- ジェイ・アップルトン (1996) 風景の経験. 法政大学出版社, 東京都, 381pp.
- 進士五十八 (2005) 日本の庭園. 中央公論新社, 東京都, 292pp.
- 田中章 (2008) これからの景観アセスメント. 156-159, 日本環境アセスメント編, エコロジストの時間. 東海大学出版会, 神奈川県 193pp.
- 姫野由香, 佐藤誠治, 小林祐司, 金キョン希. (2003). 観光資源が写された景観画像の構図解析手法. 日本建築学会計画系論文集, 68(569), 139-145.